

4月23日の論壇で、テサロニケ教会はパウロの第2次伝道旅行によって始まったことを書きました。この手紙の背景を知るためには、使徒言行録 17: 1-7 を中心に、16~18章を読んでおくことが必須です。パウロたちは、ユダヤ人の迫害にあつてあわただしくテサロニケの町や近隣の町（ベレアなど）から追い立てられ、やむなくアカイア州のコリントに来ました（49~50年）。そこからパウロは宣教の途中で別れざるをえなかったテサロニケ教会の、信仰に入ったばかりの兄弟姉妹たちの安否を問うて、コリントからこの手紙を書きました（50年）。以下、手紙と使徒言行録を対比して読んでください。

テサロニケの信徒への手紙一	使徒言行録
1章	17: 1-4
2: 2	16: 11-40
2: 9	18: 3-4
2: 14-16	17: 5-13
2: 17-3: 5	17: 14-16
3: 6-10	18: 5

使徒言行録 17章でパウロはいつものようにユダヤ人の会堂（シナゴグ）で説教します。そこではユダヤ人のほかに、「神をあがめるギリシヤ人」（ユダヤ教の中に真理があると認識して礼拝に参加しているが、割礼を受ける決心には至らない異邦人）と「かなりの数のおもだった婦人たち」（町の有力者たちの妻）がパウロの説教を熱心に聞いていました。

パウロの説教によれば彼らはもう割礼を受ける必要はなく、ただイエスを信じれば良いのですから、喜んでパウロとシラスについて行ったでしょう。その結果多くの異邦人求道者たちがパウロに従い、もうシナゴグの礼拝に通うことをせず、新しいクリスチャーの集会に参加するようになってしまいました。それでユダヤ人たちは「それをねたみ、広場にたむろしているならず者を何人が抱き込んで暴動を起こし」ました（使徒言行録 17: 1-5）。ユダヤ人たちはパウロたちのことを「世界中を騒がせて来た連中」（使徒言行録 17: 6）と言うのですから、フィリピにできた新しい教会のうわさがテサロニケにまで到達していたのでしょう。

テサロニケ教会の構成員は圧倒的に異邦人たちでした。その代表的人物はアリストタルコとセクンドで、彼らはパウロを助けて伝道旅行に参加しました（使徒言行録 20: 4）。パウロの説教の中心は「死者の中から復活したメシア」と「イエスという別の王がいる」でした。「別の」とは地上の王たちを任命することのできる根源的な王ということです。